

今回秋田県特産品開発コンクールで奨励賞を受賞した作品とは。

「受賞したのは直径10・5センチ、高さ3・7センチの榿細工茶筒『KABA平茶筒小』。この製品は平成19年度の伝統的工芸品活用フォーラム事業として伝統工芸関連の財団から支援を得て、県外のデザイナーと共同で半年ほど掛けて企画開発したものだ。従来の榿細工の完成度の高い茶筒の形を変えて多様性を持たせた新製品が評価されたのはうれしい。今回受賞した平茶筒小は50センチ入りで、『茶筒はお茶入れ』という従来のイメージから脱皮し、紅茶、コーヒー豆などにも広く活用できるのが特長。今回の発想は、対面販売でお客様の声からヒ

富岡商店

本店(仙北市)・営業本部(大仙市)

富岡 浩樹 社長



原恵美子さんは、「裁縫箱に良い」として購入された。このように用途はまだまだ広がるのでは。また製品化においては、従来より筒の径が大きいため、ゆがみを無くすのに工夫した。

「KABA」と名付けた。平成20年度も他のデザイナーと今までと違う業界に販売しようと新製品を開発中だ。また新製品にはストーリー性を持たせるようにしている。

「榿細工は国指定の伝統的工芸品。そして世界の中でも榿細工の産地は角館だけ。この価値を国内はもとより世界に発信して、一生に一つ、使い続

ントを得たもの。このほか100センチ入りの平茶筒など、いくつもの製品

「これからの榿細工の製品づくりは、オールドでなくトラディショナルでなければ伸びていかな

「榿細工は国指定の伝統的工芸品。そして世界の中でも榿細工の産地は角館だけ。この価値を国内はもとより世界に発信して、一生に一つ、使い続

県特産品開発コンクール奨励賞

多様性のある榿細工の茶筒

を開発した。例えば、この製品をご覧になった大

い。そのような考えから、角館の榿細工を都会や海外に発信していこうと思

けることができる製品づくりをめざしている。事業としては、榿細工を柱

にクラフト全般においても使い続ける豊かさの提案となる製品を企画、創作し、新人作家の作品発掘も含め、洗練されたそれだけで親しみのあるギャラリーの店舗による発信をしている。

「素材がエコであること。節度ある榿の採取をすれば桜は生育し続けることができるし、山桜を伐採した後の株から発生させた萌芽を成長させて林を更新する方法だと、従来の樹齢の半分ですく生・再生することができ

る。このように自然と調和しながら、日本を代表する伝統工芸品として、物質的な豊かさだけでなく精神的な豊かさを提案していきたい」。

